

ヨコヤマヒゲナガカミキリ *Dolichoprosopus yokoyamai* (Gressitt)

【選定理由】

自然度の高い森林中に生息するカミキリムシで、全国どこでも個体数が少ない。県内では奥三河に僅かに残されたブナ林に依存して生息しているが、他府県にくらべ存続基盤が脆弱であると判断される。

【形態】

体長 25～30mm の大型のフトカミキリ。黒色で、表面は灰白色の毛に霜降り状に覆われる。触角はオスでは体長の約 1.8 倍、メスでは体長の約 1.1 倍。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市（旧稲武町）、設楽町、豊根村（旧富山村）の 3 カ所から知られる。

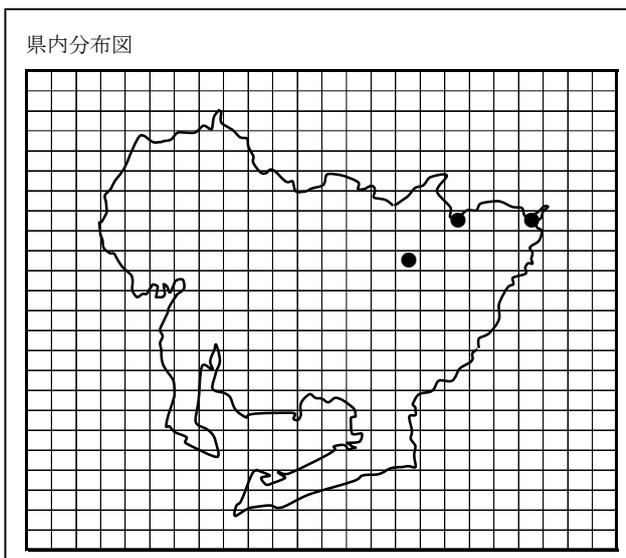
【国内の分布】

本州、四国、九州に分布。

【世界の分布】

日本の特産種である。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

ブナ林に生息する。成虫は 8 月に出現し、ブナの生木に見られる。夜行性で、昼はブナの大木の梢ひこばえ付近に潜み、夜になると幹を徘徊するといわれるが、詳しい生態は不明。灯火に飛来する個体が採集される例が多い。幼虫もブナの生木を食べる。

【現在の生息状況／減少の要因】

個体数はかなり少ないものと考えられる。生息地の内、豊田市（旧稲武町）と設楽町について、生息環境は見た目では大きな変化はないが、採集が難しい種であるだけに正確な生息状況の把握は困難である。しかし、自然度の高いブナ林にしか生息できない種であるので、過去にさかのぼれば、ブナ原生林の面積減少の影響を受けていることは容易に想像される。

【保全上の留意点】

生息域であるブナ林の面積をこれ以上減少させないことが必要である。現在の原生林の環境を守るため、特に原生林に接する道路では、林縁部の過度な伐採は、林内への悪影響をもたらす危険性が高く、慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

佐藤正孝ほか, 1990. 愛知県の甲虫. 愛知県の昆虫, (上): 200-477. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)